

C-up ワールド

2004年3月号

2004年2月の山行記録

講習山行

アイゼンワークと友達になる会(奥秩父・笛吹川東
沢/アイスクライミング)

2004年2月1日(日)

参加者

横川秀樹・田口浩昭・伊藤幸雄・山野昭人・
田中治男・浅村和史・伊藤栄子・阿出川忍・
斎藤典子・日浅尚子・久野真由美・福田洋子・
黒田記代・山野美香(本科)
坂口理子(SL)
金沢和則(講師)

計16名

コース・行程の概略

西沢溪谷入口～鷄冠谷・鷹見岩沢出合付近にて
トレーニング

コースの核心ポイント

アックス類の打ち込み方、アイゼンでの立ち方

報告者の感想

アックス類持っていないんです、私……。去年の講習では事前に山塾から借りたものが7～8本あったので気兼ねなく(と言うと語弊がありますが)使えたのですが、個人の物をお借りするとなると(なにぶん高価なお品なので)緊張しちゃって力が入らなくてなかなか打ち込みが決まりません。(本当はそれが理由じゃないと気付いています)。

参加するにあたり、一応技術書で予習したりして。<肘を先行させながらスイング、手首のスナップを効かせて打ち込む……>へ？パーチカルになってくるとまず当たるんです氷に肘が。そうすると手が振

れなくてパイルが刺さりません。2～3回もやると腕がだるくなってレストしないともういけません。でも、レストすると再び上に持っていくのがまた大変。もっと軽～いアックスってないのかなー？でも軽いと氷に刺さらない？。身体を反らせばいいんだ。でも剥がれ落ちそうどうも出来ない。あー、随分長く氷の壁にへばりついておりました。お疲れ様ですビレーヤーさん。

午前と午後では氷の形状がだんだん変化していきます。そして破壊されてきた滝の下にはたくさんのブツカキ氷が出来上がっていました。

そうそう、アックスを打ち込む時って飛び散る氷片が恐くて目を閉じてしまうんですね。メガネかゴーグルをした方が良かったみたい。

岩よりも氷の方がホールドを好きに選べるからいいという声が聞こえてきました。なるほど、たしかにアックスがビーンと効いた時は思わずガッツポーズ(実際には手が空いていないので出来ません)。でも、自分の事を信用できない私は、自らが打ち込んだアックスやけり込んだアイゼンに自信が持たなくて困ります。普通の岩のほうがいいかなー？

しかし、スクリュウをねじ込みながらリードするYさんの姿を見ていたら……まずい！やりたくなくなってきたー。どうしよう、また道具が増えちゃう。

報告者 山野 美香



講習山行

ロッククライミングに親しむ会

(日和田の岩場④)

2月8日(日)

参加者

山野昭人・田口浩昭・坂本由以・阿出川忍・
小林幸恵・日浅尚子・浅村和史・南谷やすえ・
斉藤典子・黒田記代・山野美香(本科)
矢田実(CU)
工藤寿人(講師)

計13名

コースの核心ポイント

リードクライミングの習熟・ロープワークの確認

報告者の感想

前夜、布団の中で目を閉じ、トップの場合とセカンドの場合のロープワークを思い浮かべてみました。1つ1つ整理していくと、あやふやな所が2箇所見付かりました。そこを明日しっかり勉強しようと思いつつ(調べずに)寝ました。

これは私にとっては、すごい進歩です。何故なら、今までは「わからない所が、わからない」という状態だったからです。

上る前の工藤講師の説明で、あやふやだった箇所をきちんと理解してから上ってみました。

手順がしっかり飲み込んでいると、気持ちもずっと楽で、上へ着いてからパニックになることもなく、作業がとてもスムーズに進みました。

講習を受ける時に「今日は〇〇を学ぼう」という自分なりのポイントを決めておく事が、すごく大事なんだなーと、改めて思いました。

次のステップは、本番で要求されるという「スピーディーなロープワーク」です。これには、ちょっと時間が掛かりそうですが、練習を重ねて、ロープワークだけでなく、岩の登り方にも磨きをかけていきたいと思っています。

報告者 阿出川 忍



自主山行

ハケ岳アイスクライミング

2/11(水)~12(木)

参加者

横川秀樹(L)、伊藤幸雄(SL)

計2名

コース(ゲレンデ)

2/11 ジョウゴ沢

2/12 南沢大滝、小滝

報告者の感想

世田谷の自宅を深夜3時半に出て、5時半に美濃戸口のハケ岳山荘に到着。伊藤さんと落ち合う。

雪が心配だったが、最近降った形跡はなく、美濃戸まで車で入ることにする。歩き始めは6時半。2時間弱で赤岳鉱泉に着く。宿泊受付を済ませ、ギアを装着し9時半に小屋を出発。ジョウゴ沢へと向かう。

まず、F1では、フラットフットイングの復習ということで、アイゼンで氷の斜面を登り降りする。その後、F2は伊藤さんがリード。小さなF3は登らずに右岸から越えて、明るく開けた場所に出る。ここで一休みしてからナイアガラの大滝へと向かう。

3人パーティがトップロープで練習をしている乙女の滝を右手に見送り、左の枝沢に入り込むとすぐにナイアガラだ。ここは私がリードすることにしたが、あえて難しそうな中央部を登ってみると、これが予想外に手強い。氷が固くてピックが刺さらず、半分の5mほど登ったところでギブアップ。その後、伊藤さんとバトンタッチするが、伊藤さんも最後のプロテクションを越えたところで惜しくもフォール。(幸いケガはなかった)

結局、右側の易しいラインから登ることにする。当初の予定では、この先の25m大滝を越えて硫黄岳に抜けるつもりだったが、我々二人諦めも早く「きょうはこのぐらいいしておいてやるか」と捨てゼリフを残し同沢を下降する。

小屋着は15時前。夕食までの2時間、アイスクライミングと山スキーの話に花が咲いた。

翌日は、朝7時50分に小屋を出る。大部屋を個室のように使えたのでぐっすり眠れ、体調は万全。行者小屋を8時半に通過し、目的地に9時10分着。

まず、小滝の様子を見ると、氷が半分以上剥げ落ちて無残な状況をさらしている。しかし、登れないことはないので、ポコポコの穴だらけとなった氷で2、3回練習をする。

その後、大滝に移動するが、ここも氷面は穴だらけだ。そのせいもあって、リードでは、穴にピックをひっかけるだけで体勢が安定し、安心して登ってしまう。バックロープで引いてきた50mロープと結んでトップロープをセット。各人、2〜3回練習をする。そして、15時前に撤収完了。15時半すぎに美濃戸の駐車場についた。

報告者 横川 秀樹



自主山行

神楽峰～雁ヶ峰 山スキー自主報告

2月21日(土)

参加者

横川(SL)・末木・伊藤(栄)・伊藤(幸)(L)
計4名

コース

みつまた・かぐらスキー場～神楽峰～雁ヶ峰～
スキー場西沢渓谷駐車場

報告

みつまた・かぐらスキー場に7:00集合のはずが、私の寝坊で30分遅れになってしまった。ちょっと気まずいスタートになってしまったがメンバーはやさしい人ばかりでOKサインを頂いてロープウェイに乗る。更にゴンドラ・リフトと乗り継ぎ最終リフトを9:00に降りる。スキー場の柵をまたいでスキーにシールを付ければ準備完了。

やっと山スキーの始まりである。早速、神楽峰に向けて歩きだすが、スキーヤーやボーダーも目指す人が多くアプローチはカチカチの高速道路のみである。

神楽峰につながる尾根に出たところで、我々は神楽峰に背を向け中尾根側を目指した。こちら側は歩く人も少ないようで、アプローチも柔らかい雪質に変わり山スキーらしくなってきた。廻りを見渡せば谷川連峰や越後山麓が鮮やかに輝いている。中尾根のピークに約10時着、そこから更に尾根沿いをシールをつけたまま進みUP、DOWNを繰り返しながら針ノ塔に11:30に到着。

振り返ると、尾根には我々の痕跡だけしか残っていない、目指すは前方の雁ヶ峰。ここから、シールを外し滑降を始めた。出だしはほどよい斜面で気持ち良く滑るが、すぐに鞍部になりストックで漕ぎながらの滑りになった。あまり目標物が無いのでガスると迷う場所かもしれない。

雁ヶ峰には最後の急登が待っていたが、横川氏がここぞとばかりパワー全開でシールなしで登りはじめたので残りメンバーも右倣えで追っていく。

13:00雁ヶ峰到着。

ここで尾根にお別れをし、最後のスキー場への大滑降となる。

最初は気持ち良く滑るが、すぐに急斜面で樹林帯にぶつかる。

どうしても滑りやすい斜面を探すため、気がついたら小尾根をひとつ間違えてしまった。

スキー場まじかでおまけの登りをやっしまいメンバーの目が厳しく背中を突く。

14:00スキー場着。

全員、お疲れモードだが気持ちは充実した山行だった。

報告者 伊藤 幸雄



自主山行
【タカマタギ】
2月22日(日)

参加者

田口浩昭(L)・山野昭人・山野美香

計3名

コース

土樽駅～平標新道分岐～棒立山～タカマタギ～
同コースを下山

コースの核心ポイント

めざせ!タカマタギ(今度こそ・・・)

報告

テントや車中ではなかなか寝付けずいつも寝不足気味なのにもだいが慣れてきたが、今回は前日の尼が禿山尻ノーシューハイクとその帰りに立ち寄った食堂「北国」の味噌ラーメンが効を奏したのか、土樽駅のすぐ上を通る高速道路の車や線路を走る貨物列車の音も気にならずに熟睡できた。

厳冬期の早朝は思えない異様な暖かさの中、土樽駅はラッセル講習隊19名、スキー隊2名に私達、図らずもタカマタギ集中といった感じだ。

6時出発。夜が明けて青空が広がり始めた頃に棒立山への尾根に取り付く。どうやら予報に反してしばらくは好天が続くそう。赤テープ・トレースがしっかりあるので順調すぎる出だしだったが、少し進むとスキー隊にあっさり追い抜かれてしまった。スキーでの登りを初めて間近で見たが、思いのほか楽そうにみえた。

その後は抜きつ抜かれつ前進。昨年自主山行で痛い目にあっている為になかなか口に出せないでいたが、そろそろ「今回はイケそうだね」と頬が緩んできた。

しかし、陽だまりの中休憩しながら行動食のパンを車に忘れてきたことに気付いた私に、「パン3個もってきたから分けてあげるよ」と言ってザックの中をガサゴソしていた山野君の動きがふと止まった。食料の入った袋を忘れてきたのである。どうやら似た者夫婦だったらしく(なにもこんなところが似なくても・・・)。田口さんからパンを1個分けてもらい半分ずつ食べながら、「最高のコンディションの今回万が一登頂出来ないとしたら、シャリバテが原

因だねー」などと笑っていたが内心冷や汗ものだった。

棒立山直下の急登を越えると、たおやかに伸びる尾根の先に初めてタカマタギを望むことが出来た。ほぼ一年前、悪天候で視界の利かない中皆で集合写真を取り、姿もみえぬタカマタギへ未練を残して撤退したことが思い出された。棒立山からは谷川連峰主脈の眺めが素晴らしい。足拍子岳や去年藪に苦しめられながら登頂した荒沢岳も凜々しい姿を見せてくれた。スキー隊を待ってみたがなかなか現れないので、一足お先に棒立山からひとまたぎでタカマタギ登頂に相成った。そして3人で悦びを噛みしめると、棒立山に到着したスキー隊(途中から歩き隊に変更?)から祝福の雄叫びが聞こえてきた。程なくスキー隊もタカマタギ登頂を果たし、山野×2にとっては2年越し、田口さん・横川さんにとってはなんと3年越しの恋を实らせたこととなった。傍から見たらそんなに何度もトライする程の山なのか?と思われるかもしれないが、何かにこだわるといふ事もそれなりに意味のある事のように思えた山行だった。タカマタギはアプローチ、行程、展望、姿容と実によくまとまった素敵な山である。

報告者 山野美香



自主山行
タカマタギ・山スキー
2月22日(日)

参加者

伊藤幸雄(L)、横川秀樹(SL)

計2名

コース

土樽駅～登山道入口～尾根取り付き～小ピーク～
棒立山～タカマタギ～棒立山～小ピーク～
谷へ滑降～登山道入口～土樽駅

報告

朝6時に土樽駅を出発。天気は予報に反し、青空が広がりそう。

鉄橋の下を過ぎた所でスキーを履く。尾根の取り付きから、斜登行で高度を稼いで安定した尾根上に

でる。序盤はそれほどきつい斜面はなく、直登できるところが大半だったが、進むうちにかなり急な斜面が出てくるようになる。そういうところでは、キックターンと斜登行の繰り返しで登っていくが、左側が切れ落ちている箇所もあり、この登りだけでかなり精神的にまいってしまう。

小ピークについたのが9時過ぎ。ここで二人ともスキーをデポすることに決め、私はスノーシューに履き替え、伊藤はアイゼンを装着する。

ここから棒立山へは、トレースがしっかりついていたので、それほど苦労せず1時間少々で登ることができた。さらにタカマタギのピークを踏んで、同ルートでデポ地点まで戻る。ここからしばらくは斜面が急なので、傾斜が緩くなるところまでスキーを担いで降りることにする。そして、いよいよ滑降開始。といっても木が多く、私はおっかなびっくりの滑りしかできない。伊藤は、たとえば、どこから谷に飛び出そうかと注意深く観察を続け、見つけた雪庇の切れ目から満を持して躍り出た。私はハッピー腰で続く。軽快に滑り降りるリーダーと、悲鳴をあげながら必死で続いていく私。

しかし、傾斜が緩やかになる頃、私の悲鳴はヨーデルのような歌声に変わり、高らかに上越の空の下に鳴り響いていくのであった・・・。

午後2時ごろ下山。収穫の多い一日が終わった。

報告者 横川 秀樹



アプローチは、相沢沿いの林道終点から2時間（下り1時間）

荒船山への登山道を登り、途中から左側の沢に入り、尾根を二つ越して、講習場所に到着。

コースの核心ポイント

トップロープでの垂直氷壁の登攀。

立った硬い氷へのアイスパイルの打ち込み方。

三角バランス（打ち込んだパイル位置と両足の位置との関係）による登攀。

報告者の感想

2月に入って暖かい日が続き、氷が解け始め、当日アイスクライミングが可能な場所選びに、新保講師 苦悩する。初期の予定の場所を、荒船山の相沢に変更。8:30 下仁田駅集合。林道終点まで車で行く。快晴で暖かく、汗だくで歩く。講習場所は日陰で、さすが寒い。氷が解けずに残っているはずである。硬くてかなり垂直な氷を登るのは初めてだったので、なかなか思うように登れない。横川さん、日浅さんは新保講師のアイスクライミング講習を何回も受講しているの、スムーズに完登。私は初めての受講である。今まで我流で、やばい所はごまかし通っていたのだが、今回の氷はごまかしが通用しない。アイスクライミングの基本的な登り方の説明を受けて登るが、思うように行かない。頭で一応理解できても、体がうまく使えない。確実なアイスパイルの打ち込みと三角バランスによる登攀をしないと、登れないことを実感しました。

場数を多く踏んで、基本をしっかり身につければ、どんな氷でも登れるようになるのだろう。

報告者 黒田 記代



講習山行

アイスクライミングマスター

2月28日(土)

参加者

横川秀樹・日浅尚子・黒田記代
新保 司(講師)

計4名

コース・行程の概略

西上州・荒船山 相沢の氷柱「エイプリル・フル」 高さ約20m

講習山行

八海山

2月28日(土)~29日(日)

参加者

伊藤幸雄・末木俊之・田口浩昭・福田洋子・
久野真由美(本科)
松本善行・向原侑希(CU)
小林英男(講師)

計8名

コース・行程の概略

28日(土)

13時八海山ロープウェイ頂上駅発

16時テント場着(池ノ峰~浅草岳中間コル付近)

29日(日)

6:20テント場発~7:50薬師岳山頂着~
同じコースを引き返す~9時頃テント場着~
テント撤収~28日と同じ経路を引き返す~
11:30頃八海山ロープウェイ頂上駅着

コースの核心ポイント

ラッセルワーク、急斜面でのピッケル・アイゼンワークなど

報告者の感想

28日は、いい天気でした。前夜は雪で、新雪のコンディションの良い八海山スキー場グレンデを羨ましげに見下ろしながらゴンドラで頂上駅まで上がり、そこからテント場までは、膝~膝上のラッセルでした。まともなラッセルの経験と言えば、2年前のタカマガキくらいなものであり、ワカンも使わない状況でどうなることやら、まず、不安でした。

次々に先頭を交代しながらのラッセルでしたが、皆さんガンバってなかなか先頭を交代しません。(さすが皆さん2年生以上で体力あります。)

3回くらい先頭の番が回って来ました。最後の番では小林講師のアドバイスに従ってザックをデポしてラッセルしてみました。確かに先頭者がザックをデポしてラッセルするのは速いです。(でもデポ地点まで引き返して追いつくのは結構大変でした。)

またラッセル2番手で、先頭者の足跡に周囲の雪

を埋め込むように、少し先頭者のトレースを外して歩くというのも試みてみました。確かに先頭者の足跡をそのままトレースするとさらに足跡が深くなって歩き難く、疲れます。トレースに周囲の雪を埋め込むと足場もしっかりし、楽でした。ピッケルを使って雪を足跡に掻き落しながら歩くのも試みてみました。そんなことをやりながら歩きましたので、2番手で歩いている時も疲れませんでした。

夜はテント場で軽い宴会でした。みなさん小林講師のラッセルのライン取りに感銘を受けた模様で、その話題で盛り上がってました。(雪の深く積もった箇所を避ける歩き方)

翌日朝は雪。テント場では風はそれほど強くはなかったのですが、薬師岳頂上辺りは強風でした。2日目は急な雪壁を登る箇所もありました(女人堂手前)。松本さんが始終先頭を歩いて、自分は3番手を歩きました。1日目ほど雪の深い箇所は多くはありませんでした。前の人をのトレースを埋める歩きにこだわって歩いたためか結構疲れしました。

薬師岳には1時間半くらいで到着しましたが、そこから見る大日岳の岩場には圧倒されました。(岩場の左右は危険そうな雪の斜面だし...ということはあの岩場を登るのだろうか?)

薬師岳を少し下ったところに千本松小屋があり、そこまで行って引き帰すということになり、進みはじめましたが...後方から小林講師のストップの音が掛かりました。(ただの下りじゃなかったんですね!雪庇の発達した崖でした。)つまりそこはザイルをフィックスして慎重に下らなければならない箇所だったので。

結局この時期は、薬師岳山頂から先に進むのは困難ということでした。5月連休ころの雪の安定した頃なら大丈夫ということ。来年度は、薬師岳山頂を目指した日帰り講習となりそうです。テント場からゴンドラ頂上駅までは、前日のトレースが効いて1時間ちょっとで楽々帰還。六日町の温泉に入って、14:40ころには駅に到着。

自分が本科生として参加する最後の講習となりましたが、最後にまともなラッセル山行を経験することができてラッキーでした。何日も停滞するような雪山は辛いでしょうが、ちょっとしたラッセルの雪

◆2002年2月入会以降、講習山行112日(研修含む)、自主山行42日、その他の山行25日、ゲレンデスキー37日。人工壁トレ数十日。今後の目標は、妻を大切にすること。(22期 横川秀樹)
進路: 良き家庭人。妻が許せば、研究生。

岩崎さんをはじめ、講師、同人、研究生、23期の皆さん、ありがとうございました。卒業生一同から御礼申し上げます。

編集局から

ここ2年雪が少なく春の訪れが早く、2月のタカマタギ山のラッセル講習では、本格的なラッセル体験ができない様子です。しかし、お陰で今年はタカマタギ山を目指した全員が山頂を踏むことができ、ラッキーでした。個人的には、自分の本科生としての最後の講習となった八海山で膝上のラッセルを体験できましたこと有意義でした。

自分が編集するC-upワールドはこれが最後になりました。前編集長から引き継いだそのままの形態で、変わり映えもなく、2年間強引に引っ張った感じになっていましたでしょうか? . . . 。なにはともあれ、2年間原稿を書いて頂いた本科生のみなさま、ありがとうございました。

C-upワールドは、新編集長の下、編集体制も強力になり、紙面の雰囲気も、内容も、大きく変化し、名称も「月報 岩小舎」と変わって登場するようです。

新「月報 岩小舎」、大いに期待してます。

お世話になりました。ありがとうございました。
た

アドレス

無名山塾

<http://www.sanj.c.com>

Phone 03-3941-3481

Fax 03-3941-3482